

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第42号

発行:2015年7月9日
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・fax(082)428-0160・(082)428-1360

盆会法座

日 時 8月1日（土） 9:00～15:00頃

朝席 9:00～11:30 暮席 13:00～15:00



ご講師 山下瑞円 師（岡山県高梁市成羽町 淨福寺副住職）

第46回歎異抄輪読会

日 時 7月16日（木） 19:00～20:30頃

ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

磯松天龍寺墓苑並びに合同墓合同参拝

日 時 8月12日（水） 18:00～19:30

場 所 磯松天龍寺墓苑

※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。
但し、天龍寺墓苑での合同参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

仏壯・仏婦からのお知らせ

★天龍寺仏教壯年会 月例会 7月31日（金）19:00～20:30

天龍寺清掃奉仕に対しまして感謝申し上げます。

先月の6月13日（土）に天龍寺にご関係をいただいております天龍寺仏教婦人会・天龍寺仏教壯年会のみなさまによる清掃奉仕をしていただきました。

仏教婦人会のみなさまには、本堂内も含め清掃をしていただきました。また、仏教壯年会のみなさまには、天龍寺の境内地の草刈りをしていただきました。当日は暑い日であり、さらにはお忙しい中、清掃奉仕にご参加いただきましたこと書面をお借りしまして感謝申し上げます。

天龍寺トイレ・排水管等の改修工事が完了しました。



5月初旬から6月中旬にかけて、天龍寺本堂トイレ・排水管等の工事をしていただきました。平成22年3月に勤務しておりました広島音楽高等学校を早期退職させていただき、5年目を迎えております。

その期間の中で、当山にご関係をいただきしております方々から、様々なご意見等をいただきおりました。この度改修工事をさせていただきました件に関しましても、多くの方からご意見等をいただきおりました。しかし、なかなか実行する事が難しく、如何なものかと思っておりましたが、この度なんとか出来る事ができました。これも平素天龍寺に対しまして、みなさまのご理解・ご協力・ご支援等の賜物と感謝しているしでございます。

まだまだやらなくてはならない事が多くありますが、私の出来るところで皆様方のご意見・ご協力等をいただきながら進めさせていただければと思っております。

最後に、改修工事にご尽力をいただきましたハ本松設備様・山本様・新山様には、書面をお借りしましてあらためて感謝申し上げます。

「非戦・平和を願って70年」の法要に参加させていただきました。

今月7月4日(土)に広島別院にて、ご門主ご臨席のもと「全戦没者追悼法要並びに原爆忌70年法要」が厳修されました。

今日(7月9日)の毎日新聞の一面に『安保法案15日衆院委採決』という言葉が記してありました。

少し高飛車な言い方になりましたらお許しをいただければと思いますが、冷戦が終結し、世界のバランスが崩れ、さらに昨今ではアメリカの国力が低下し、一方で中国の台頭等、日本を含めた世界のパワーバランスは、あらたな局面を迎えていると思っております。

現在でも尖閣諸島近辺では、他国の領海・領空侵犯が起り、南シナ海に目をむけますと南沙諸島においての埋め立て、さらには新聞等の紙面に度々問題になっておりますギリシャ問題も、地政学的な観点から、経済的な問題もさることながらロシア・中国の関心の高さが示すように、政治的な意味合いが大きいと個人的には思うところでございます。

人間は、戦争はしてはいけないと頭では理解しているながら、有史以来、戦争がない時はあります。こと日本に限って言えば、この70年間戦争はありませんでした。先の大戦の教訓を活かし、戦争のない時代が続く事を私なりに強く願うところです。

しかし、仮に南沙諸島がある国に支配下になり、日本のシーレーンが脅かされることになれば、日本の石油・天然ガスを積んだ船舶は、南シナ海経由の航路の変更を強いられ、遠回りの航路を選択しなければなりません。そうしますとあるシンクタンクの計算では、船舶の追加燃料代等も含め1兆円近くの損失を受けるかも知れないと試算していました。その様な理由等も含め、政府は「集団的自衛権」の解釈を、これまでの見解とは違う解釈に進めているのかもしれません

世界史的に見れば、戦争は突き詰めて考えますと食料・エネルギー等の奪い合い、さらには宗教・民族等の違い等が原因なることが多いと思う事があります。仮に中国・インドの全ての人々が、現在の日本人と同じ生活水準の生活をするようになったならば、地球はいくつあれば良いのかと考える事もあります。世界の人口は増えており、益々食料・エネルギー等の不足が生じる事は明白だと思います。限られた食糧・エネルギーの分配さらには宗教・民族等の枠を超えて、大局的な見地から今一度考える時代が来ていると思っております。